

経営比較分析表

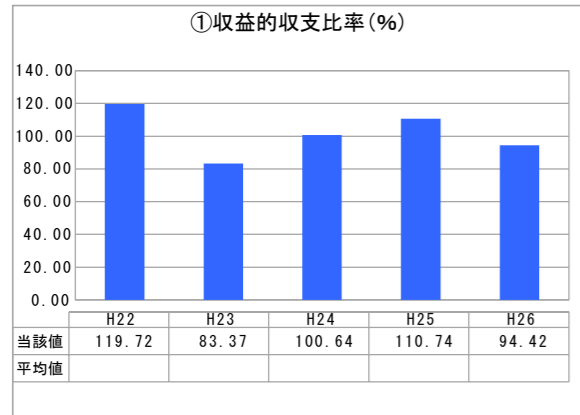
埼玉県 三芳町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	
法非適用	下水道事業	公共下水道	Bb1	
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	78.62	84.79	1,404

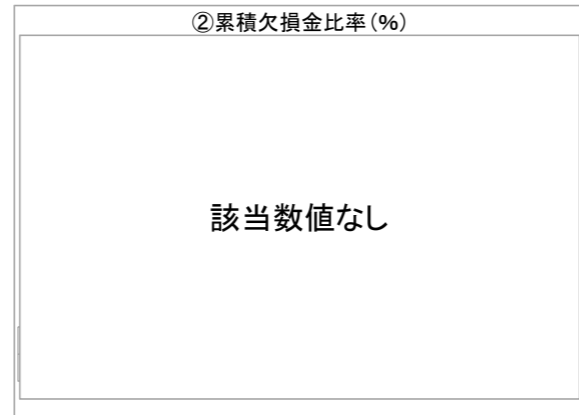
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
38,233	15.33	2,494.00
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
30,071	3.06	9,827.12

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	平成26年度全国平均

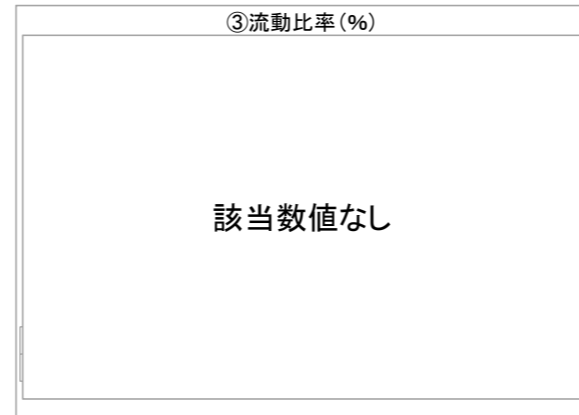
1. 経営の健全性・効率性



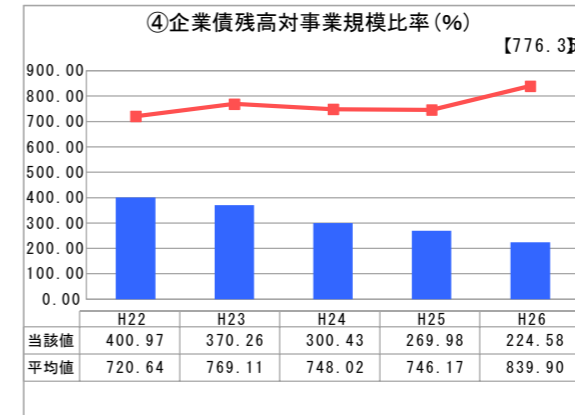
「単年度の収支」



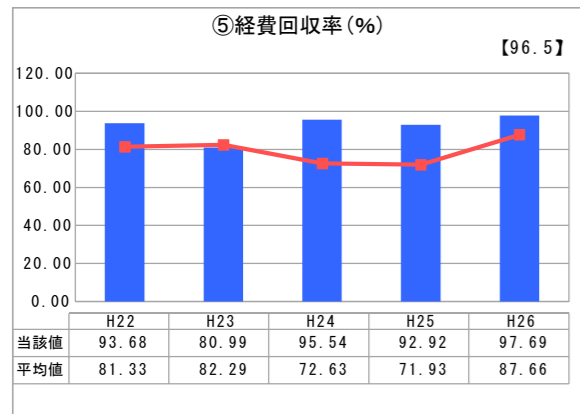
「累積欠損」



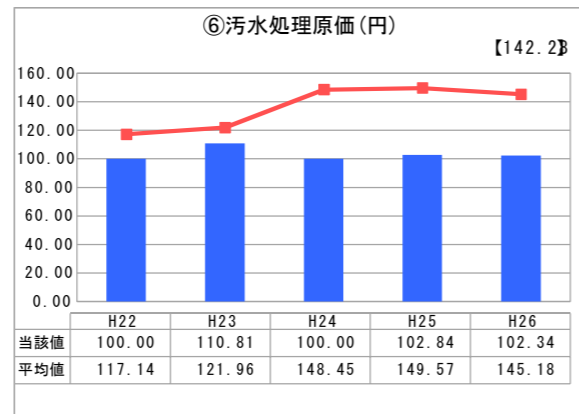
「支払能力」



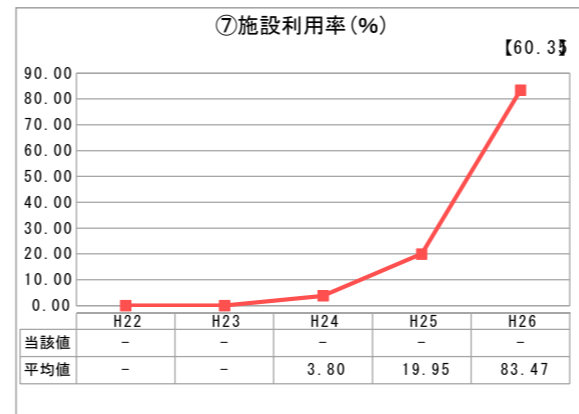
「債務残高」



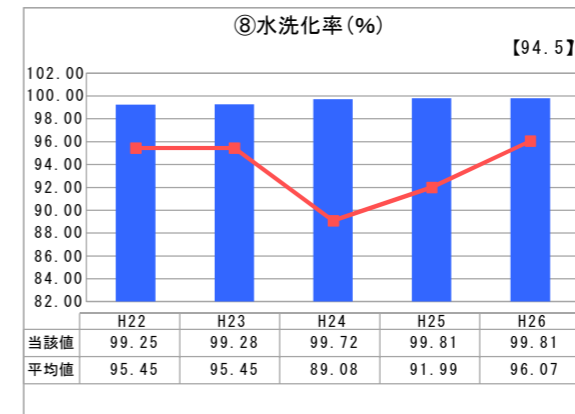
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

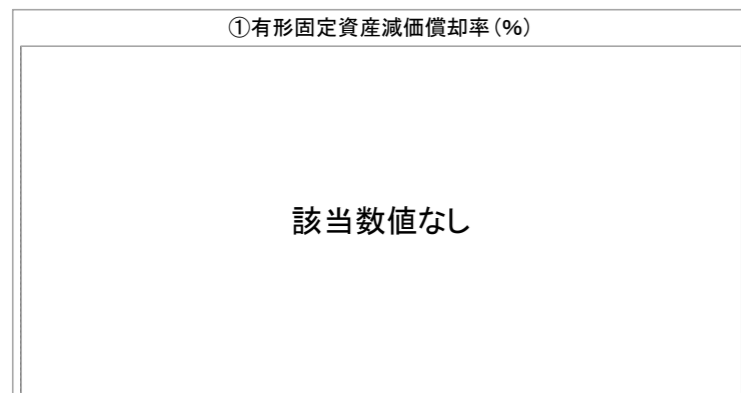


「施設の効率性」

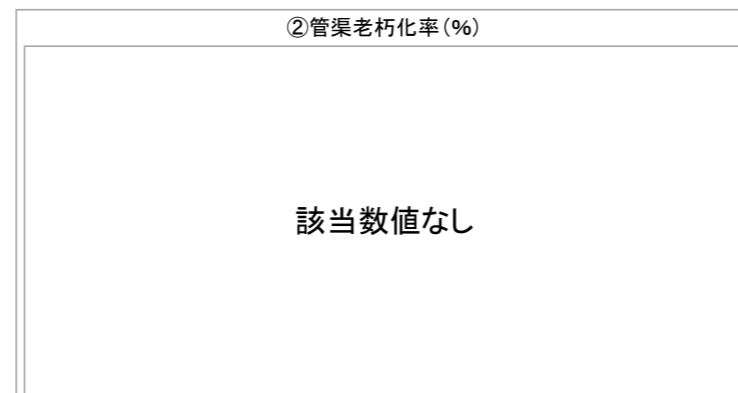


「使用料対象の捕捉」

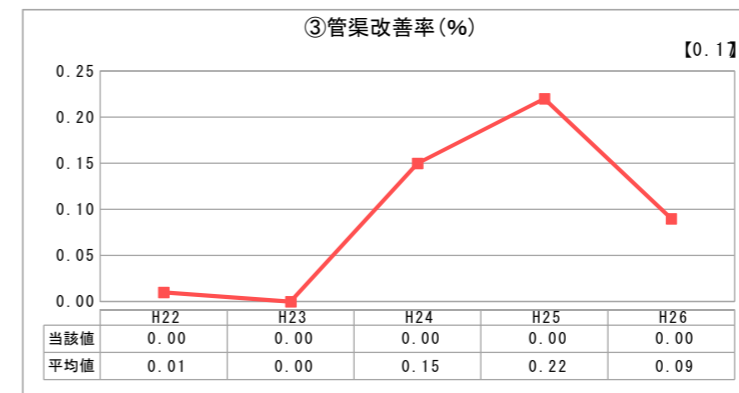
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

当期間については、23年度を除きほぼ黒字となっている。しかしながら、収益について使用料だけでは賄いきれないのが現状で、一般会計からの繰出金に依存するところが大きい状況が続いている。また、経費回収率についても、良好とはいえず、接続率が10%近いため、大口企業からの使用料収入と、流域下水道の維持管理費用に影響されるところが大きいと認識している。

投資的事業はほぼ完了し、企業債償還額の削減や、人件費の削減等を行ってきており、類似団体平均値に比しても汚水処理原価は低水準であり、現状では費用の効率性については、悪い状況とはいえないが、一般会計の状況や今後の施設更新時期を考慮すると、健全経営を続けていくためには、さらに自主財源を確保しなくてはならない状況にあるといえる。

2. 老朽化の状況について

排水管敷設は昭和50年より開始しており、40年が経過している。概ね5年後には、最古の排水管から順次本格的な老朽化の調査を開始することになる。

調査結果によっては、簡易な補修ではなく、耐用年数を前倒しし、本格的な更新工事に着手することも考えられる。

また、中継ポンプ場が1基存在するが、平成27年度より本格的な長寿命化対策に着手し多額の費用を要することになる。

全体総括

平成27年度までで新規築造事業は終了する。すでに、企業債の償還も過半ははじめ、人件費等可能な限り歳出削減に取り組みまた、積極的に基金積立に努めてきた。今後は流域下水道の維持管理はもとより、近い将来、排水管の更新等本格的な維持管理の時代にシフトして行く。

このような状況下において、安定した経営を確保するためには、安定した収益に努めなければならない。収益は現在も、一般会計繰入金に対する依存度が高く、一般会計の負担軽減のためにも、自主財源の向上が必要である。したがって、平成27年10月に平均7.7%の使用料改定を行ったところである。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。

※ 平成22年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。